しろあと

第145号
令和５年３月８日発行
発行：館林市立第二中学校ＰＴＡ
編集：第二中学校広報委員会

３年生のみなさんご卒業おめでとうございます。
卒業まで、残りわずか！
最後の中学校生活、めいっぱい楽しんでください。
先日行われた予餞会では、１・２年生の後輩たち、そして顧問の先生方からの思いのこもった動画を楽しみました。オンラインでの開催でしたが、先輩方への思いは伝わったでしょうか。
今回の「しろあと」１４５号では、卒業にむけての言葉や、１、２年生の活動の様子をお知らせします。

合唱コンクール

修学旅行

感謝

校長　竹内昭典

先日、立志式をオンラインで行いました。二年生が書いた「立志の誓い」の作文を拝読しました。多く出ていた単語の一つが「感謝」でした。アフリカの一部の地域では、平均寿命が五十代後半、日本でも昨年話題の鎌倉時代は二十代だったそうです。ここまで元気に成長できたのは日本の医療事情もありますが、ご家族の慈しみがあってこそです。夏季大会の壮行会では、「顧問の先生を県大会に連れていきたい。」と宣言した主将がいました。二中生は、ご家族は勿論、クラブのコーチや小中学校の先生に感謝の気持ちをもち、臆することなく表明できる二中生を私は嬉しく、また誇らしく思います。

今後、無人島で暮らさない限り人との繋がりをもつことになります。英語の「Thank you」も直訳すると「あなたに感謝」です。感謝の気持ちをもつことは、洋の東西を問わず、世界共通のことなのだと改めて実感いたしました。今春以降の生徒の活躍が楽しみです。

三年生から一言

松澤勇斗
僕が今年一年で一番思い出に残っていることは修学旅行です。理由は、友達と一緒にたくさんのお寺を見学したり、他のクラスの友達が特徴的な帽子をお土産に買っていたり、何より中学校生活で初めての泊まりの行事というたくさんの楽しい思い出ができたからです。
僕が修学旅行とその思い出から学んだことは、友達はとてもかけがえのない存在だということです。一緒にいると楽しいし、一生忘れられない思い出を作ってくれる友達の存在はとても大切です。

伊勢心
私が一年間で一番思い出に残ったことは修学旅行です。
三年間で初めての宿泊行事で、京都に行くのも初めてでした。二泊三日の修学旅行は笑顔で始まり、笑顔で終われました。教科書の中でしか見たことのないお寺に行けたり、おいしい物をたくさん食べたりと、みんなと楽しく過ごすことが出来ました。初めてのことが多くドキドキしましたが、中学校生活最大のイベントを笑顔で過ごすことが出来てよかったです。

小林慶也
私が今年一年間で一番思い出に残ったことは、合唱コンクールです。
なぜなら、三組のみんなと最も協力し合えたと思っているからです。テノールだけでもアルトだけでもソプラノだけでも合唱は完成しません。それぞれが協力し合うことで合唱は完成します。「虹」を歌うと決めてから、毎日みんなで一生懸命練習し、最高の虹を作ること、金賞を取ることができました。あのきれいな虹が私の一番の思い出です。

関口周悟
僕が今年一年間で一番思い出に残ったことは、ＪＯや合唱コンクール、持久走大会などの順位がつく行事です。理由は、みんなで一つの行事に向かってたくさん練習し、終わってみればどの行事も順位に関係なく、すごく楽しむことができたからです。合唱コンクールでは今までの三年間の中で一番真剣に練習しました。本番で金賞を取れたのも嬉しかったですが、みんなと最高の「虹」を歌えたのがよかったです。
このような行事を通して、元々楽しい行事でも、クラスみんなが一つになればその何倍も楽しめることを学びました。

三年の先生から一言

荻野昌行
コロナ禍による休校から始まった中学校生活でしたが、その学校生活はみんなが力を合わせて多くの課題を乗り越えてきました。力を合わせる大切さ、乗り越える努力の重要さを心に、新たな旅立ちを、第二中卒業生としての誇りを持って歩んで行ってください。

森木美帆
ご卒業おめでとうございます。
二年間、七四人とみんなと過ごすことができて本当に幸せでした。毎日楽しかったね。毎日のクラス、授業、いつも笑顔で迎えてくれてありがとう。人を思いやる温かい気持ちといつもの笑顔を忘れずに、素敵な大人になってね。ずっとずっと応援しています。

藤生由美子
ご卒業おめでとうございます。
人生の節目がひとつ過ぎようとしています。これからさらに自分で選ぶ道も多くなりますね。責任も伴うけど、楽しい事もたくさんあります。無限の可能性を秘めた皆さんがうらやましいです。皆さんの人生に幸多きことを願っています。

田村啓祐
ご卒業おめでとうございます。
「笑顔」があれば辛いことがあっても乗りこえられる！十年たっても、二十年たっても中学校三年間で得たものは、皆さんの生活の支えになっていることと思います。皆さんと過ごした時間は私にとっての宝物です。一年間ありがとうございました。

稲垣進也
ご卒業おめでとうございます。
「全力は美」。何事にも全力で挑戦した部活動や行事、学習が君たちを成長させました。これからの生活も「全力」で取り組んでください。いつまでも応援しています。

吉田朱里
何かを美しいと感じる心を大切にしてください。どんなものでも構いません。「美しい」と感じる心もまた美しく、これからの未来を輝かせてくれるはずです。皆さんのこれから続く未来に幸多からんことを！

野本祥一
ご卒業おめでとうございます。
どんなときでも周りの人を気遣う優しい気持ちを大切にしてください。そうすれば、自分が本当に困ったときに必ず周りの人が助けてくれますよ。そして、自分のことも思いっきり褒めてあげましょう。人に優しく、自分にも優しく。素敵な大人になってください。

三年生の皆様へ

三年保護者

卒業おめでとうございます。あっという間の三年間だったのではないでしょうか。入学した頃は、まだ幼かった皆さんが、この中学校生活で過ごした三年間で身体も、そして心も大きく成長したことを本当に嬉しく思います。
コロナ禍ということもあり、いろいろな行事が制限されてしまいましたが、それでも仲間と過ごした日々は、かけがえのないものであり、楽しかった思い出となったはずです。
今後は、一人一人別の道を歩んでいきます。時には悩んだり、迷うこともあると思います。そんなときは一人で悩まず、抱え込まず、周りの人たちに相談してみてください。悩み考えて、そして更に成長していってください。皆さんの今後の飛躍を期待しています。
校長先生をはじめ、諸先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

『本気の合唱』

一年一組　須藤環

合唱コンクールに向けて、どうしたら気持ちを込めて綺麗に歌えるか話し合いながら、より良い合唱にできるように練習をしてきました。
そして迎えた合唱コンクール当日、みんな優勝する気で、今まで沢山努力してきたことを信じて本番に臨みました。
ステージに立った途端に心臓がバクバクと打ち始めて、足がすくみました。それでも、合唱実行委員の二人がトップバッターにも関わらず、カンペも見ずにクラス紹介をしてくれたり、指揮者がみんなと目を合わせて微笑んでくれたりしたので落ち着くことができました。
しかし、いざ歌ってみると声も小さく、かすれてしまいました。みんなもとても緊張していたのがよく伝わりました。それでも、みんながみんなの背中を押すように、一人一人が心と心を一つにして歌うことができました。とても嬉しかったです。結果は銅賞。とても悔しかったです。今まで、凄く本気で沢山努力してきたのでなおさら悔しかったです。でも、今まで努力してきたことは決して無駄では無かったと思います。
私は、この合唱コンクールでもう一度、一年一組の団結力を見ることができました。皆と心を一つにして、本気になって歌えたことをとても嬉しく思いました。

『大切なもの』

一年二組　飯塚千尋

一年二組は金賞を目指し、「大切なもの」を毎日練習していました。スローガンは「見せつけろ　勝利の歌」。はじめの頃は勝利の歌どころか、バラバラで声も出ないなど改善点だらけのまとまりのない合唱でした。練習では、北澤先生や山本先生からたくさんのアドバイスをもらい、アドバイスをもとに何回も練習し、本番に向けて練習してきました。
本番では練習してきたことを信じて今の自分の精一杯を出し切りました。舞台に立つと想像以上の会場の広さに驚きました。私たちは、たくさんの人に思いを届けようと精一杯歌いました。私にとっては今までで一番良い百点の歌を歌えたと思います。
いよいよ結果発表。私は手を合わせて発表を待ちました。
「金賞は……二組！」
「やった！」私は心の中でこう言って喜びました。先生や教育実習生の先生にも褒められ、今まで頑張ってみんなで練習してきて良かったと思いました。
私は、この合唱コンクールで本当の大切なものに気づけたと思います。

『みんなの心は金賞』

一年三組　安藤李々亜

私は合唱コンクールを終えて、クラスのみんな、学年のみんなが何事も全力で取り組んでくれる人達だと改めて感じました。
私はパートリーダーと実行委員の役割をいただいて嬉しかったです。
嬉しかった理由は、同じパートの仲間達が自分からそれぞれ直したほうがいいところや一人ひとりへのアドバイスを出し合ってくれる、本当に頼りのある仲間たちだったからです。実行委員では、クラスのみんながコンクールに必要な出し物を分担して協力して作ってくれるなど、本当に頼りになるクラスだと思いました。
本番の合唱コンクールでは、全学年の合唱を聞いて鳥肌がたちました。
学校のみんなが合唱で熱く燃えるため、本当に努力や協力をしてきたんだと思いました。私はこの初めての合唱コンクールを経験して、来年への合唱コンクールへのやる気が倍にでました。先輩方の合唱は来年への参考になるところがたくさんありました。たとえ結果が思うようにいかなくても、私はみんなの心は金賞だったなと思いました。最後に、残り少ないクラスの仲間たちとの時間を大切にしていきたいなと思いました。

二年生　立志式を迎えて

一月二十六日(木)の五校時に、二年生は校内で立志式を迎えました。大人になる自覚を深めて将来を意識し、進路について学習したり、立志を迎えるにあたっての作文を書いたりして当日を迎えました。
立志式では、校長先生からの立志を迎えるにあたっての心構えをお話いただき、各クラスの代表者による「立志の誓い」作文発表をリモートで行い、各クラスで視聴しました。
以下に、生徒の作文を紹介します。

校長先生からの講話

「しょうらいのゆめといまのぼく」

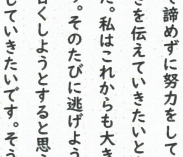
二年五組　小堀叶偉

しょうらいどんなしごとをしたいかはまだ、きまっていません。でも、きまっていることがあります。それは、ふつうのおとなになることです。ふつうにごはんをたべたり、はたらいたりしたいです。
でも、よくかんがえたら、いまもふつうにごはんをたべて、はたらいてはいないけど、がっこうでがんばってべんきょうして、ふつうにせいかつしています。
いま、もうゆめが叶っていることにきづきました。
ぼくのじんせいはしあわせです。

「将来の夢」

二年一組　関和奏

私は、将来医療関係の仕事に就きたいと思っています。そして、沢山の人を助け、笑顔にしたいです。
その理由は、職場体験代替の出前授業で看護師の方のお話を伺い、患者さんの人生によりそえる医療関係の仕事に興味をもったからです。私は、もともと誰かを助けられる仕事がしたいと思っていました。だから、職業体験ではそのイメージに近い看護師を選びました。
その出前授業で看護師さんが、ハードな仕事で肉体的に辛いけれど、患者さんに「ありがとう。」と言ってもらえることがやりがいだと仰っていました。これを聞いて、患者さんの命と笑顔のために責任感をもって仕事をする姿勢が心に響きました。そして、私もその看護師さんのようになりたいと思い、医療関係の仕事により一層興味を持つようになりました。
この夢を叶えるために、私は、職場体験の時に看護師さんが、「今のうちに色々な経験をしておくべきです。」だと仰っていたので、これからは経験を増やすために様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。何事にも挑戦してみる心を大切にしていきたいです。
医療関係の仕事には様々な種類があるので、まだ具体的な職業は決まっていませんし、これからの経験で目指す職種が変わるかもしれません。ですが、誰かを助け、笑顔にしたいという初心を忘れないようにしたいです。そして、将来どの職業に就いても、責任感を持ち、自分にできることを一生懸命やるようにしたいです。



「自分の未来のために」

二年二組　前田真美

私の夢は、イラストレーターです。私は幼稚園の頃から絵を描くことが好きで、小学生の頃から少しずつ絵について意識しながら描くようになりました。イラストレーターになってみたいなと思ったのは小学四年生からで、そこから絵についての本や絵が上手な人が描いたものを細かいところまで見て、どこがどのように良かったのか参考にして自分で表現できるものを増やせるように頑張りました。友達や家族に褒められるたびにとても嬉しく、もっと頑張ろうと思えました。
ですが、絵を描くことを続けるたびに周りと比べられて自分の絵が好きじゃなくなったり、自信もなくなったりしてしまいました。「自分にはできない。」「自分の絵は誰も好きじゃない、必要とされてない。」と、心のどこかで思ってしまったこともあります。そう思うたびにすごく辛く、もう絵は描きたくないなと思ってしまいました。そんなことを思いながら描いた絵は全く楽しくなかったし、絵が完成した後なんて嬉しくなかったです。そんな日々が続いても、自分の絵が上手くなるわけでもないし、本当に絵が上手い人に追いつけるわけなんてありません。悔しいと思いながら、必死に描きました。自分の絵には自分には何が足りないのか、どこがどのようにだめなのかしっかり考えながら向き合い続けました。それでもどこがだめなのか、わからない時もありました。友達や家族にも手伝ってもらい改善できるように努力をし続け、自分の描いた絵を上達できるように頑張りました。
私は、現在でも自分の絵に自信を持てません。つい、自分の絵と他の人の描いた絵を比べてしまったりします。そのたびにやっぱり苦しいなと思ってしまいますが、私の絵を必要だと思ってくれている友達や家族の何より自分のためにも描き続けることを諦めないように頑張っています。
今後私は今の夢を諦めてしまうこともあるかもしれません。それでも今の私は未来の自分のために、私にとって大切なことに努力を重ねて今あるこの思いを守り続けたいです。

「信じれば変われる」

二年三組　安達莉央

私は、努力のできる人になりたい。そして努力の良さを教えられる大人になりたい。
皆さんは努力をしたことがありますか。この質問に多くの人は、あると答えるのではないでしょうか。私が努力できる人になりたいと思ったのは、バスケ部のおかげです。
私はバスケ部に入る前はとても自分に甘く、嫌なことからすぐに逃げていました。何をするにも中途半端で、自分自身のことが嫌いになっていても、自分を変えようと努力していませんでした。そして中学生になって部活を選ぶときに、バスケ部を見に行きました。私は体育館で練習を必死に頑張っている先輩達を見て憧れを抱きました。私も先輩達みたいなかっこいい人になりたいと。ですが、人はすぐに変わることは有り得ません。はじめの頃はそれなりに頑張っていましたが、自分に甘く嫌なことからすぐ逃げようとする性格は変わらず、いつもの私のままでいました。走る練習では疲れたらすぐに歩いてしまったり、行動が遅かったり、練習中の声かけをさぼったりしていました。そして私は部活が辛くなっていきました。自分自身のせいなのに、また逃げようとしました。私は、部活の先輩達や他のみんな、先生を見て自分自身が情けなくなりました。みんなは努力して頑張っていたからです。それから私にはみんなに追いつきたいという気持ちが芽生え始めました。走る練習では歩かないように努力したり、先生にアドバイスをもらったりと色々なことに努力ができるようになりました。すると、部活が楽しく感じたり、先輩たちやみんなに少し近づけたような感じがしたりしました。
私はこのような経験ができたから、これを生かして諦めずに努力をして他の人にも努力の大切さを伝えていきたいと考えるようになりました。私はこれからも大きな壁にぶつかるでしょう。そのたびに逃げようとしたり、自分自身に甘くしようとすると思うが、そのたびに努力をしていきたいです。そうすれば、色々な人に努力の良さを教えられる大人になれると信じているからです。